

2020年度業務実績報告書

提出日 2021年1月20日

1. 職名・氏名 准教授・加藤裕美

2. 学位 学位 博士、専門分野 文化人類学、授与機関 京都大学、授与年月 2011年11月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 東南アジアの文化と社会 （2単位） 1・2・3年次配当
②内容・ねらい（自由記述） 東南アジア各国の現代的状況を環境、国家、民族、宗教、食文化、芸能など様々な視点から読み解く。東南アジアは日本から遠い地域ではなく、日本人の生活のなかにも東南アジアとつながりのある人、モノ、現象があふれていることを理解することをねらいとした。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 技能実習制度やツーリズム、宗教紛争、サブカルチャーなど、現代的テーマを盛り込んだ構成とした。教材は、記入式のレジュメとパワーポイントを併用し、要点が分かるよう工夫した。フィールドワークで得られた情報や教員自身が撮影した写真、動画、体験談を多く盛り込むことによって、学生の関心を喚起するよう努めた。民族衣装を体験する機会を設け、現地社会の状況が分かるよう工夫した。 毎回小テストをおこない、授業内容について学生の考察を記入させた。これにより、文章力や論理的な記述力の向上をはかり、学生の理解状況を把握した。授業の冒頭で前回の復習と、小テストへのフィードバック、そして質問への回答と解説を行った。 福井県内に住む JICA 青年海外協力隊 OB、インドネシア人技能実習生雇用者などをゲストスピーカーに呼び、多角的な視点から東南アジアの文化と社会への理解が深まるよう工夫した。毎回トピックに関連する書籍を回覧し、授業後も学生がさらなる学習を行う手助けとなるよう配慮した。オンライン授業の際は、Google Classroom による資料の配信と、Zoom によるリアルタイム授業、録画の配信を行い、学生が円滑に受講できるように努めた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 観光学 （2単位） 1・2・3年次配当
②内容・ねらい（自由記述） マスツーリズム、ホストゲスト関係、異文化接触、伝統の変容、世界遺産、文化の商品化など、ダイナミックに絶えず変化する現代社会における観光のありさまを世界各地の事例とともに解説した。地域現象としての観光の諸課題について検討し、地域社会の関わり方や持続可能な観光のあり方について理解することをねらいとした。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 観光学の理論と事例の両方を学べる構成にし、事例では、福井県内、日本、世界とバランスよく学べるように留意した。統計データや新聞記事を用い、客観的に観光現象を理解できるよう試みた。 パワーポイントを使用し、スライドには図表や写真を多く載せた。毎回、観光について 1~3本の短編動画を視聴することにより、視覚的な理解を助けた。講義が一方向的にならないよう、適宜学生を当て意見を求め、緊張感をもって授業に臨めるように努めた。観光行政に携わる人をゲストスピーカーに呼び、様々な視点から観光現象を学べるように取り組んだ。 毎回小テストを実施し、授業内容について学生の意見を記入するようにした。これにより、文章力や論理的な記述力の向上をはかり、学生の理解状況を把握した。授業の冒頭では前回の復習と、小テストへのフィードバック、そして質問への回答と解説を行った。授業に関連する書籍を回覧し、授業後も学生がさらなる学習を行う手助けとなるよう工夫した。オンライン授

業では、Google Classroom による資料の配信と、Zoom によるリアルタイム授業、録画の配信を行い、学生が円滑に受講できるように努めた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
宗教学（2単位） 1・2・3年次配当

②内容・ねらい（自由記述）

世界の宗教現象を通して人間の考え方の多様性を学び、宗教や信仰が人間の生き方に与える影響について解説する。世界の多様な宗教の基本事項について理解できること、また異なる宗教を信仰する人々の生き方を理解し、尊重できるようになること、宗教という視点から現代社会や自分自身を客観的に考察できるようになることをねらいとした。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

統計データを用いることにより、現代日本人の宗教、あるいは世界の宗教について客観的に理解できるよう工夫した。仏教、神道、キリスト教、イスラム教、ヒンドゥ教など、主な宗教の基本事項を解説するとともに、宗教紛争や宗教のグローバル化など、現代社会に関係するトピックを選び、学生の関心に沿うように構成した。福井県立歴史博物館の学芸員などをゲストスピーカーに招き、福井の信仰の特徴について講義を行うなど、信仰について現実的関心を喚起できるよう気を付けた。

穴埋め式のレジュメとパワーポイントを併用し、パワーポイントには写真や図表を多く載せた。毎回短編動画を1~3本視聴することにより、視覚的な理解を助けた。147名が受講した大人数講義であったが、一方的な講義にならないよう、適宜学生を当てて緊張感をもって授業に挑めるようにした。

毎回小テストを実施し、学生の意見を書かせることによって、文章力と論理的な記述力の向上を図った。講義が一方的にならないよう、小テストの結果は、次の回でフィードバックを行った。各回の授業に関係する参考図書を回覧することにより、授業後の復習の手立てとなるように工夫した。オンライン授業の際は、Google Classroom による資料の配信と、Zoom によるリアルタイム授業、録画の配信を行い、学生が円滑に受講できるように努めた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
研究の世界（2単位） 1・2・3年次配当

②内容・ねらい（自由記述）

学術教養センターの教員によるオムニバス講義である。専門以外の学問分野にも興味を持ち、視野を広げ、現象について多角的に理解できるよう複合的な視点の獲得を目的とした授業である。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

オムニバス講義のコーディネーターを担当した。13人の先生方の調整を行い、Google Classroom の運営を行い、学生が遠隔授業をスムーズ受講できるように尽力した。オンラインによる資料の配信、小テストや小レポートの実施、授業動画のアップロードなどの補佐を行い、混乱なくオンライン授業が実施できるように工夫した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
導入ゼミ（はじめての東南アジア）（1単位） 1年次配当

②内容・ねらい（自由記述）

東南アジアについて自身の興味のあることを発見し、それを調べ、他者にわかりやすく伝える技術を習得することをねらいとした。そのなかで、大学生活に必要な基本的スキルである、文献検索、レジュメ作成、レポート執筆、パワーポイントを用いた発表、ディスカッションのしかたについて学ぶ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

少人数制授業であるため、グルーディスカッションや学生同士の発話の時間を多く設けた。前半は、メールの書き方、文献検索のしかた、レジュメの作り方、レポートの書き方、ディベートのしかたについてポイントを絞ったレジュメを配布し、課題を提出させ、授業で発表することによって双方向に習得度合いを確認した。後半の調べ学習では、学生の関心を深める幅広

いテーマを選択できるように工夫した。グループ学習を行い、グループでスライド発表を行うことによって、コミュニケーション能力の向上を目指した。オンライン授業では、Google Classroom による資料の配信と、Zoom によるリアルタイム授業を行った。ブレイクアウトセッションを多用することにより、学生どうしが円滑にコミュニケーションをとれるように努めた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 教養ゼミ（国際理解）（1単位） 1年次配当
②内容・ねらい（自由記述） このゼミでは、国際社会の様々な事象をテーマに、対象の調査方法、文献の検索方法、調査課題のまとめ方、レジュメやスライドを使った発表のしかたなどを学ぶ。大学生活に必要な、基本的な学習スキルの習得をねらいとした。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 経済格差、観光、環境問題、希少生物保護、スポーツなど、国際理解に関わるテーマを学生が自由に設定し、グループ学習を行った。選んだテーマをもとに、日本と世界の状況を比較検討できるように工夫した。少人数のゼミであるため、学生同士で発話する時間を多く設けた。前半は、メールの書き方、文献検索のしかた、インターネットを使った情報検索のしかた、レジュメの作り方、レポートの書き方についてポイントを絞ったレジュメを配布し、課題を提出させた。後半の調べ学習では、環境問題、希少生物保護、観光、スポーツについてグループ学習を行い、グループでスライド発表を行うことによって、コミュニケーション能力の向上を目指した。授業中に全員で自己評価と相互評価を行うことにより、達成度を確認した。オンライン授業では、Google Classroom による資料の配信と、Zoom によるリアルタイム授業を行った。ブレイクアウトセッションを多用することにより、学生どうしが円滑にコミュニケーションをとれるように努めた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 学術ゼミ（文化人類学）（2単位） 2・3・4年次配当
②内容・ねらい（自由記述） このゼミでは、文化、信仰、民族、歴史、観光、食文化など文化人類学のトピックについて学ぶ。ゼミ生の関心のあるトピックを選び、文献を輪読した。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 今年度は「観光」と「宗教」にかんする文献を輪読した。学生のモチベーションを維持するため、文献は学生が選択した。レジュメを用いて発表を行い、それぞれが意見を言う時間を長めに取り、コミュニケーション能力やディスカッション能力の向上に努めた。遠隔授業だったため、海洋生物資源学の学生も履修することができた。
(2)その他の教育活動
内容

4. 研究業績（2020 年 1 月～12 月）

(1)研究業績の公表
①論文 （タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所について）、掲載雑誌名（号数）、掲載（受理）年月日）
②著書 （タイトル、共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ）、出版年、出版社名） 加藤裕美 2020「野生動物食」野林厚史編『世界の食文化百科事典』丸善出版：東京 pp.68-69. 加藤裕美 2020「生物多様性と文化多様性による観光—マレーシア・サラワクの伝統工芸品」山崎茂雄編『世界の工芸と観光—手しごと・美しさ・豊かさ』晃洋書房：京都 Pp.11-45.
③学会報告等 （タイトル、報告学会（大会）名（開催年月日）、共同報告者の有無（共同報告の場合は主たる担当箇所）） 加藤裕美 2020 年 5 月 31 日 都市におけるマイノリティ：マレーシアの狩猟採集民シハンの民族関係. 日本文化人類学会第 54 回研究大会. 早稲田大学. 2020 年 5 月 30 日-31 日. (本人発表)
④その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動（担当報告名、担当学会（大会）名（開催年月日））
学会での役職など（学会名）
学会・分科会の開催運営（担当学会（大会）名（開催年月日）、開催場所）
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加（参加研究会名、調査活動名（期間））
②その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
【学外】 科学研究費補助金若手研究「マレーシアにおける定住した狩猟採集民が現代的社会問題を克服するための実証的研究」（研究代表者）2019 年度-2022 年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「ボルネオの原生林保護と先住民コミュニティの自律的生存が両立する持続的管理の条件」（研究分担者）2019 年度-2023 年度 代表者: 金沢謙太郎 【学内】

学術教養センター競争的資金（Z 枠）「福井在住ディアスポラの応用人類学的研究：コミュニティの創生とネットワークに着目して」（研究代表者）2020 年 4 月-2021 年 3 月 25 万円.
学術教養センター競争的資金（Z 枠）「福井の里山から生まれる新たな資源活用に関する研究」（研究分担者）2020 年 4 月-2021 年 3 月 代表：石丸香苗. 25 万円.

(5)特許出願

なし

5. 地域・社会貢献活動

(1)学外団体

①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）

②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）

③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）

④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）

⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
（事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）

⑥その他（名称、活動場所、活動期間）

(2)大学が主体となっている地域貢献活動等

①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時）

②社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時）

③その他（名称、活動場所、活動期間）

(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

（活動内容、主たる活動場所、活動期間）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(職名、期間)
(2)委員会・チーム活動
(名称、期間) 全学委員会 COC 委員会 (2019 年 4 月～現在) 地域志向科目部会 (2019 年 4 月～現在) 学術教養センター内委員会 国際交流委員会 (2018 年 4 月～現在) 研究・広報委員会 (2018 年 4 月～現在)
(3)学内行事への参加
(行事名、参加日時)
(4)その他、自発的活動など
(活動名、活動内容、活動期間)